



12月3日発表のオーストラリアの政策金利の据置きについて

金融政策について

オーストラリア準備銀行(RBA:中央銀行)は12月3日の金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを年率2.5%に据え置くことを決定しました。これは事前の市場予想通りでした。RBAは声明の中で、「現在の金融緩和政策は景気回復を促しつつ、インフレ目標を達成することができるものであり、当面適切である」との判断を示しました。次の金融政策決定会合は来年2月4日の予定です。

今後の見通し

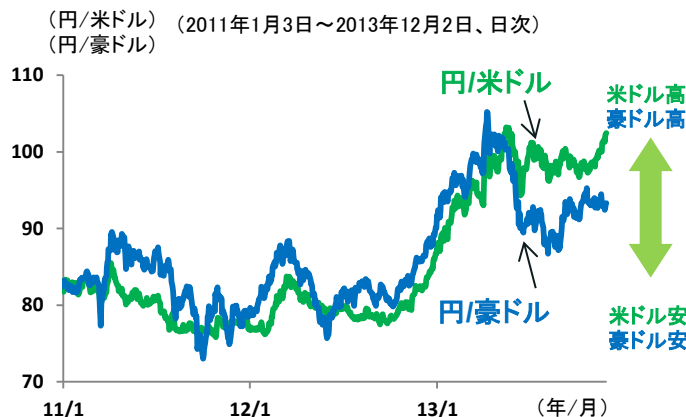
オーストラリア経済は、資源投資が低調となっているものの、低金利を背景に住宅市場が回復し、内需においても個人消費は徐々に回復してきています。家計や企業マインドは改善しつつありますが、その持続性はまだ不透明な状況にあります。インフレ率は下落しており、中期のインフレ・ターゲットの範囲内で推移しています。

9月に政権交代したアボット新政権は、炭素税と鉱物資源利用税の廃止法案を審議し、家計や消費者マインドの改善を促そうとしています。また、非効率な財政支出の節減に努め、財政健全化路線を維持していく方針です。オーストラリア経済のファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は引き続き安定しており、金利水準も相対的に高く資源国通貨でもある豪ドルは、長期的には堅調に推移するものとみています。金利については、横ばいから低下、株式市場については、利下げの効果もあり、上昇してくるものと予想しています。

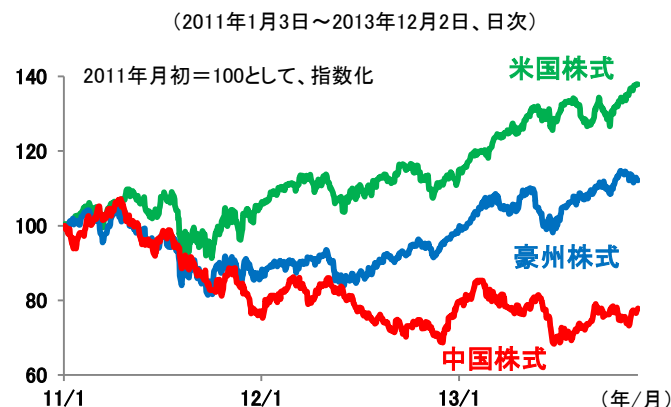
【図表①】 豪州政策金利と国債利回り(10年)の推移



【図表②】 円/米ドルと円/豪ドルの推移



【図表③】 豪州株式、中国株式、米国株式の推移



※豪州株式:S&P/ASX200指数、米国株式:NYダウ、中国株式:上海 総合指数

【図表④】 豪州株式と金価格の推移



出所:図表①～④は、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。《審査確認番号H25-TB88》